

しなののうた

飯綱の山に三度の雪見れば  
間近に雪の迫るを知る

l.M

杉田小百合

しなののうた

朝夕の寒き身に沁む極月の  
友のメールにやおら起き立つ

杉田小百合

l.NI

しなののうた

形見なる母の作りし綿入れを初下ろしするわれ七十五

l.MI

杉田小百合

しなののうた

身の整理をすると友言えど  
捨てるものなし転居六回

杉田小百合

l.NI

しなののうた

葉を落とし天を突くがのプラタナス  
誉ごつごつわが胸を射る

l.NI

杉田小百合